

資料4

西東京市公民館運営審議会
令和7年度第10回定例会

令和8年度 公民館主催事業計画書

公民館事業計画における基本方針（令和6年度～10年度）

- 1 開かれた公民館
- 2 問いかける公民館
- 3 地域とともに

公運審提出日 令和8年3月18日

	実施館	事業名	基本方針	期間・回数	事業概要	主な講師等
1	柳沢	障害者学級 くるみ学級	1 2	4月11日から 令和9年3月15日 第2・第4土曜日及 び日曜日 13時30分から15時30 分 全38回	知的に障がいのある人を対象に学びの場を提供し、音楽、創作、調理、スポーツなどの多様な活動を通して社会性や自主性を養うことを目的に実施する。	公民館で活動しているサークルや地域人材に講師を依頼予定。
2	柳沢	子育て中の外国人女性のための日本語講座(保育あり)	1 3	①5月8日から7月10日(10回) ②9月4日から12月11日(15回) ③1月8日から3月12日(10回) 金曜日 10時から12時 全35回	子育て中の外国人女性が、日本語習得とともに生活習慣や文化を学びながら地域とのつながりを深めていくことを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度および24年度実施の「外国人のための日本語講座」スタッフ養成講座修了者。 ・市内日本語教室ボランティア経験者。 ・文化振興課主催日本語ボランティア養成講座修了者。
3	芝久保	【共催事業】 ちいさな展示会と講習会 ※市民サークルとの共催	1 3	令和8年5月から令和9年3月 午前及び午後 展示会 講習会	芝久保公民館で活動しているサークルメンバーが指導し、制作した作品の展示を行う。 地域の人々への学びの循環と公民館での活動を多くの市民に周知する機会とする。	やまもも（市民サークル） 陶遊会（市民サークル） 草木染たんぽぽ（市民サークル）

4	芝久保	子どもと保護者対象講座 ころころ玉ねぎ ～野菜の収穫と五感アートを 体験～	1 3	5月31日 6月7日 日曜日 10時から12時 全2回	食について改めて考えるきっかけを つくり、学びや体験を通して、子ど もと保護者が同じテーマに向き合う 機会を提供する。野菜の栽培と収穫 を学び、五感で感じながら創作する 「五感でアート」を体験する。	小林 凌 (こばやし農園) 大野恭裕 (臨床美術士) 谷いづ美 (臨床美術士)
5	谷戸	子育て中の人のための講座 (保育あり) 実践で学ぶアドラー心理学 ～笑顔で子育てをするために できること～	1	5月27日から7月 8日 水曜日 10時から12時 全7回 ※保育説明会 5月 20日	日常生活で悩んでいることや疑問に 思うことを共有し、アドラー心理学 の基本的な理論と実践方法を学ぶ。 子育て中に変化する気持ちや体調に 気づき意識することで自分自身に目 を向ける。保育室に通う子どもたち が、保育員や異年齢の子どもとの継 続的な関わりのなかで成長する場と する。	成瀬夕子 (勇気のなる木代表、看護 師) 下田祐治 (メディカルハーブコー ディネーター)
6	ひばりが丘	ひばりロビーサロン	1 3	【ロビー展示】 令和8年4月から令 和9年1月 【活動紹介と交流の 場】	市民サークルの皆さんと地域住民の皆 さんがともに楽しむことのできるひと 時を提供する。 ひばりが丘公民館を拠点として活動す る市民サークルの主体的な活動紹介や 新規メンバー獲得の場となるととも に、地域で学びたい、何かやってみた い、仲間を作りたいと願う地域住民が 気軽に足を運び、活動を始めるきっか けの場となることを期待する。	

7	ひばりが丘	子育て中の女性のための講座 (保育あり) 子どもの声の聴き方、伝え方のヒントⅡ	1 3	6月5日から7月24日 金曜日 10時から12時 全8回 ※保育説明会5月29日	0歳から小学生の子を持つ親が、成長や発達段階に応じた子どもの行動や困りごとの背景を学び、自分の子育てを振り返る。 子育ての不安や悩みを安心・安全な場で語り合い、共感してくれる仲間や頼れる支援者を得ることで、課題を抱える家族・親子の孤立を防ぐ。保護者が学んでいる間、子どもたちは保育室で年齢も性別も異なる集団で生活することを通し、家族だけではない新たな社会を体験する。	清水 陽子 (アドラー式アートセラピスト、Coco-labo代表) 富樫 京子 (臨床発達心理士スーパーバイザー、一般社団法人ぼろんのいえ代表理事) 西村直人 (音楽家・音楽療法士。NPOえほんうた・あそびうた代表理事)
8	ひばりが丘	思春期の子どもに向き合うための講座 不登校共に考え共に歩む	1 2	6月15日 6月29日 7月13日 月曜日 10時から12時 全3回	不登校の子どもをどう理解し向き合えば良いかを考え、話し合う機会を提供する。保護者同士が悩みや思いを伝え合い、共有する機会を設けることを目指す。対象は小学校高学年から高校生の子を持ち、不登校に関して理解を深めたいと考える保護者とする。実際に子どもが不登校であるかどうかは問わない。	大澤俊彦 (31年間の教員を経験 元不登校経験者の保護者)